まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ意見まとめ

地区	蒲郡南地区	**回数**	第１回
日時	平成 30 年７月８日（日）　午後１時 30 分～午後４時		
会場	蒲郡中学校　図書室	**参加者数**	38 名

１．計画検討やワークショップの進め方について

１）公共施設マネジメント実施計画の考え方

将来的に人口が減少するという理由で公共施設を減らすと、さらに人口が減ってしまい先細りになってしまう。人口を増やすことを考えた公共施設のあり方を検討したい。

・　人口が減るからといって公共施設を減らすと、さらに人口が減ってしまい先細りになってしまうと思う。人口の減りを鈍化させ、さらには増やすことを考えたい。

・　施設を減らすことを考えるのではなく、人口を増やすことを考えるべきだと思う。

駅前地区は人口が必ずしも減少するということでもないはずである。また、人口密度を踏まえると、現状の保有面積が多いとは言えないのではないか。必要な施設はあるので、単純に施設を減らす、３割床面積を縮減するといった議論ではなく、各施設の機能や役割を見極めながら存続の有無を考えていきたい。

・　駅前地区は人口も多く、今後も減らないという想定もできるので、施設を減らすだけの議論はしない方が良いのではないか。必要な施設はあるので、機能や役割をみながら考えていく必要がある。

・　「３割縮減」からスタートするのではなく、各施設の機能や役割の観点から存続するかどうか、あり方を考えていくのが良い。

・　人口あたりの公共施設の量（敷地面積）が県内４位となっているが、上位の市は人口密度が低い市だ。こうした地域では対象とすべきエリアが広くなる分、駐車場などで必然的に施設も大型化、数も増える傾向がある。数字だけ見せられて「だから削減していきたい」というのは、今回の公共施設削減の理由にはならないのではないか。

将来的に市の人口が減少するので公共施設を減らす必要があることは理解できたが、市の中心部であり、津波や液状化の影響も心配ない本地区は、既に宅地開発されている場所もある。市全体と人口減少の度合いも異なるだろう。このことからも施設が多いのは当然のことであり、一律に３割縮減という考え方には違和感がある。

・　将来的に市の人口が減るのはわかったが、減少の度合いは地区によって異なるのではないか。蒲郡中学校区は人口の減少があまりない地区ではないかと思う。どの地区も一律で３割縮減というのには違和感がある。

・　市の中心部で人口も多く、この地区に施設がたくさんあるのは当然のこと。全地区一

律に３割縮減ということにはならないのではないか。

・　この地区では新しい住宅ができている所もあり、津波や液状化の影響も心配ないので今後さらに住宅開発が期待できると思う。公共施設を減らす必要性は理解できるが、市内の全ての地区で３割縮減の目標設定には納得がいかない。

コスト削減を大前提とした検討は避けて、将来の蒲郡南地区の地域づくりのためになる話合いをしていきたい。

・コスト削減を大前提とした検討は避けて、あくまで将来の蒲郡南地区の地域づくりのためになる議論を進めてほしい。

市全体で公共施設を３割縮減する方針が妥当な考えなのかを理解するため、その算定の根拠を示してほしい。

・　市全体で公共施設を３割縮減する方針が妥当な考えなのか理解するため、算定の根拠などについて知りたい。

人口が今後３割減るのだとすると、公共施設の面積も３割以上減らす必要があるのではないか。

・　人口が３割減り、公共施設の面積を３割減らすと、結局１人あたりの面積は減らない。１人あたりの面積を減らすためには、３割以上減らす必要があるのではないか。

地区個別計画は、いつ実行されるのか。10 年後か 30 年後かによって考え方や優先順位が異なってくる。

・　今回の計画の実施目標年次は何年後を目処に考えればよいのか。30 年先ならば次世代に残す将来形として考えるし、10 年ならば現状の課題解決を優先することになる。

市全体だけでなく、地区ごとの正確なデータ（例：高齢者数や児童生徒数、施設ごとの支出や収入など）や情報を出してもらい、蒲郡南地区や地区内の各地域の現状や課題、歴史的背景やこれまでの経緯を踏まえて議論を進めたい。

・　長年地元に住んでいても地域について知らないことが多い。地域に関する様々なデータや情報を示してもらい、地域の現状や課題について学べることはとてもよい。しっかり学んだ上で検討したい。

・　現況に関するデータについては、市全体のデータも必要ではあるが、より蒲郡南地区の状況や過去からの推移などをわかりやすく示してほしい（例：高齢者数の変化、小中学校の児童・生徒数の推移）。蒲郡南地区の特性をメンバー同士で共有した上で議論するべきである。

・　情報や数字は正確に示してほしい。府相公民館の移設についての話し合いの際には、

ボートレース場を含めた公共施設の敷地面積しか示されていなかったように思う。今回はボートレース場を除いた場合の数字も示されている。誤解を与えないように情報は正確に提示してほしい。

・　各施設にかかっているコストや利用料収入などのデータを踏まえた議論が必要である。

・　蒲郡南地区の中でも地域ごとに状況は異なる。それぞれの特性や地域課題を踏まえて考えていく必要がある。

・　過去の歴史やこれまでの経緯などを学んだうえで、それらを踏まえて議論を進めていきたい。

２）地区個別計画策定に向けた検討の進め方

中学校区ごとで公共施設の再編を考えるということだが、学校区ごとに検討した再編計画を市全体としてひとつに合わせた時に、果たして整合性やバランスのとれた計画になるのかが心配である。

・　７つの中学校区それぞれで施設の再編を考えていくと言うが、各学区の計画を合わせた時に市全体としてのバランスが取れるのかという疑問がある。ちぐはぐになってしまわないか。

蒲郡南地区は小学校が３校あり、公共施設のなかで大きな割合を占めている。各地区で一律に公共施設を３割縮減することが絶対だとしたら、この地区は小、中学校の統廃合を前提に話を進めなくてはならない。統廃合を考える前に現在の学校の空教室の利用のあり方を検討するなどして、統廃合をしないで済む方法を探りたい。

・　市全体で公共施設を３割縮減だとして、各地区が一律に３割縮減という考え方は絶対なのかを確認したい。もしそうならば、蒲郡南地区には小学校が３校もあり公共施設のなかで大きな割合を占めるので、小中学校の統廃合を前提に話を進めることになる。

・　３つの小学校の統廃合が前提ではないと考える。小学校の統廃合を考える前に、現状の小学校の空き教室の規模縮小や、公民館の利用率向上による規模縮小することで、小学校の統廃合をせずに済むのではないか。

全市利用型施設は、今回のワークショップで検討する施設の対象外になっているが、生きがいセンターや生命の海科学館などの全市利用型施設は、地区利用型施設としての機能を担っていたり、今後、担う可能性も出てくるだろう。全市利用型施設のなかでも地区利用型施設の機能や配置に影響を及ぼすであろう施設については、併せて検討対象とした方が良いのではないか。

・　全市利用型施設は地区別ワークショップの検討の対象外になっているが、生きがいセンターなど地区内にある全市利用型施設は地区利用型施設としての役割も確実に担っている。例えば、生きがいセンターを地区公民館と統廃合するという再編案も合理的

に考えられるが、やはり検討の対象外になってしまうのか。

- 住民が利用する施設と観光客が利用する施設（例えば「生命の海科学館」など）は、それぞれ機能や役割が異なる。こうした施設と周辺の公民館の機能分担や機能の共有ができるようになると良いのではないか。
- 生命の海科学館や看護学校などが人口８万人の自治体に果たして必要な施設なのか。今回のワークショップの議論ではないかもしれないが、こうした施設を廃止して地区利用施設を残すという考え方もあって良いのではないか。

全市利用型施設は、今回のワークショップで検討する施設の対象外になっているが、災害時の全市利用型施設の位置づけや活用について鑑みながら、地区利用型施設の機能や配置を検討する必要があるだろう。あわせて、全市利用型施設の市の考え方や方針も示してほしい。

- 全市利用型施設の考え方や進捗についても知りたい。体育館や消防署、市民病院などが今後、どうなっていくのか。また防災などの観点から、こうした全市利用型施設をどう活用していくのか、なども鑑みながら、地区利用型施設についても考える必要があるのではないか。まずは市としての方向性や考え方を示した上で、地区個別計画を考えていく必要があるだろう。

府相公民館の移設を検討した際は、移転先をどこにするのかに集中して検討してしまったように感じている。配置や組合せだけを検討して「仏作って魂入れず」にならぬように、その施設でどのような活動をするのかなど、ソフト面も併せて検討する必要があるだろう。

- 府相公民館の移転を検討した際には、移転先をどこにするかが先行されてしまい、そこでどんな活動をするのかというソフトの検討が不十分だったと感じている。配置や組合せだけを考えると、仏作って魂入れずということになりかねないので、ソフトの検討もする必要があると思う。

府相公民館が竹島小学校敷地へ移設され、竹島小学校との複合施設として建設されることが決定していたことを初めて聞いた。これまであった市民センター機能がなくなる理由も含めて、決まった経緯やその理由をきちんと地元住民に説明してほしい。また、周知徹底をしてほしい。

- 府相公民館が竹島小学校敷地に建て替えが決まっているとは知らなかった。地元住民だが、どのように決まったのか経緯を知りたい。また、単なる移設ではなく、南部市民センターの役割はなくなることなど、正確な説明をしてほしい。
- 府相公民館を竹島小学校に移設するという前提条件については、そうした検討が行われていることが知らされていなく、初めて聞いた話で驚いた。事前に地域で周知されているとありがたい。

蒲郡中学校区は広いので、蒲郡南部小学校区と竹島小学校区は１つのエリアと考えても良いが、東部小学校区は少し離れているため別のエリアという認識ではないか。東部地区として結束しているところもある。

・　蒲郡中学校区は広いので、蒲郡南と竹島は１つのエリアと考えても良いが、東部は少し離れていて別のエリアという認識ではないか。２つの地区とは活動エリアが違うし、東部地区として結束しているところもある。

地区にとって公共施設の機能や配置は、防災の視点でも重要なことである。避難所や防災倉庫の位置、また、防災備蓄品の整備状況などを把握した上で、検討していきたい。

・　防災対策は地域の重要な課題である。そうした観点でも検討を行う必要があるので、避難所や防災倉庫の位置、さらに防災用品の準備状況なども、地図情報などで示してほしい。

ワークショップ参加者の意見や検討結果を踏まえるだけでなく、実際に検討対象となっている公共施設（学校や保育園など）の運営を担う現場スタッフの意見も聞いた上で複合化や統廃合等、検討する必要がある。

・　複合化や統合において、学校の先生や保育園の保育士など施設運営者の声は十分に聞けているのだろうか。ワークショップの参加者だけでなく、こうした人たちの声も聞きながら進める必要がある。

ワークショップ参加者だけでなく、ワークショップに参加していない高齢者の意見も聞いてほしい。その際には、老人クラブなど既存の活動や、各地区の集会所に出向いたりするなどして、高齢者の意見を聞く工夫が必要である。

・　高齢者の意見を聞く手立てとして、例えば老人クラブなどの会合に出向いて行って説明をして意見を聞く。または、各集会場などを利用して意見を聞くなどすれば、近隣の方も出向きやすくなるのではないか（顔見知りだから意見も言いやすい）。高齢者の意見を聞く工夫も必要だと思う。

３）ワークショップの進め方

ワークショップの検討内容は、オープンハウス（パネル展示型説明会）やかわら版配布なども実施しながら、できるだけ広く蒲郡南地区の方々に知らせてほしい。

・　今回の検討内容はワークショップの参加者だけでなく、できるだけ地域にオープンになるようにしてほしい。（かわら版やオープンハウスは結構だと思う。）

このようなワークショップのようなまちづくりについて話し合う場に、今後増えるであろ

う高齢者の参加が少ないのが気になる。もう少し参加があった方が良い。

・　今後増えていくとされている高齢者がこうしたまちづくりの話し合いの場に参加していないことが気になる。若い人の参加は歓迎するが、もう少し高齢者の参加もあった方が良い。

ワークショップでは、各公共施設の機能や役割、規約や制約、管理体制、築年数や耐震補強の状況などを理解した上で、検討に入りたい。情報提供だけだとなかなか理解ができないので、説明をしてほしい。また、専門用語などは参加者にもわかりやすい表記や説明をお願いしたい。

・　ワークショップの参加者が、各公共施設の役割、規約や制約、管理主体のことを理解しないまま施設の複合の話をするのは良くない。そういった情報を提供してもらった上で話をすべきだと思う。

・　対象施設の築年数や耐震強度の有無などについては、参考資料にも掲載があるが、できれば説明をしてほしい。耐震強度についても、「耐震補強済み」、「耐震性能あり」、「新耐震基準の性能あり」など理解しにくい表現がある。

施設や機能をただ一緒にすればよいということではなく、その施設を複合化や統合することで現在の利用者がどのような影響をうけるのか、メリット・デメリットを整理した上で検討していきたい。

・　施設の複合化や統合を考える際には、利用者である住民のメリットやデメリットを十分に考えて検討していくのが良い。ただ施設や機能をくっつければ良いという議論ではない。

府相公民館については、既に建設検討委員会と市の協議が重ねられ、竹島小学校敷地への移設と竹島小学校との複合施設として建設される方針があるため、今回は前提条件として検討を進めることになっているが、本来ならば地区利用型施設として整合を図りながら一体的に検討するべきものであると思う。

・本ワークショップのプロセスと府相公民館の検討は別物として進んでいるが、本来は整合を図りながら一体的に検討されるべきものである。

２．地区のまちづくりや公共施設について

１）地区のまちづくりの方向性

公共施設マネジメントについては、既に策定されている「まち・ひと・しごと総合戦略」をはじめとした、市の上位・関連計画を把握し、まちづくりの視点を持って検討する必要がある。

・　まちづくりの視点を持って公共施設のあり方を検討する必要がある。

・　すでに策定されている蒲郡市のまちづくりの計画や、他市町のお手本となる計画などがあれば教えてほしい。
・　公共施設マネジメント事業について検討するということだが、総合戦略に掲げている基本目標の全てについて、つまりはまちづくり全体の方向性について検討した上で、公共施設を考える必要があるのではないか。

子育てしやすく、暮らしやすいまちを目指せば、人が移り住んでくれるようになると思う。

・　子育てしやすい、暮らしやすいまちを目指すことで、人が移り住んでくれるようになると思う。

現在の課題だけでなく、中長期的、将来的な地域の課題を想定し、課題解決のための方向性を検討しながら議論を進めていきたい。

・　現状の課題だけでなく、中長期的な観点から将来的な地域の課題や方向性を考慮しながら議論を進めていきたい。

２）公共施設の現状や今後について気になること

■公共施設全般

府相公民館が竹島小学校との複合施設とすることを前例として、今後、他の公民館と小学校も複合化をはかれば、公共施設を減らすことができ効率的である。他の施設は府相公民館と竹島小学校のように距離もなく、やりやすくて良いのではないか。

・　竹島小学校に府相公民館が移転することが前提となっているが、これを前例にして今後学校に公民館が複合されるという動きになるのだろうか。公共施設を減らすのだとしたら、それが効果的な方法だと思う。府相公民館と竹島小学校は距離があるのでこれまでと状況が変わり、使いづらくなるかもしれないが、他の地区内の他の公民館と小学校は比較的近いので、そういう心配はあまりないのではないか。

児童館や小学校、小学校や保育園等の関連する施設は、隣接していたり、連携しやすい位置にあると利用者にとっては便利で効率性を高めることができる。子育てしやすい、生活しやすい地域につながるのではないか。

・　関連する公共施設間の連携が図れるように、位置関係などを検討するべきだ。例えば、保健センターと市民病院は場所が離れており、あまり効率的ではない。
・　南部小、保育園、児童館が集まっているエリアは、小学生が児童館にすぐに行けて子どもの遊び場として安心感があり、小学校と保育園に通っている兄弟の送迎が便利などのメリットもある。
・　小学校と保育園が隣り合っていると、一度に送迎ができるので保護者はかなり楽になる。そうした、子育てしやすい地域になるような計画にしたい。

子育て機能を持つ施設や、高齢者が利用する施設を複合化すれば、新たな交流が生まれて相乗効果につながる。居住者も増えるのではないか。

- 子育て施設が集まった所に、高齢者が利用する公民館のような施設が来れば、新たな交流が生まれて Win - Win の関係になるのではないか。
- 施設を複合して人が集まる施設ができれば、住む人が増えるきっかけになるのではないか。

公共施設と民間施設が担う役割を整理した上で、場合によっては、公共施設の管理・運営を民間に任せることも検討し、民間事業者と連携をとることも考えてもよいのではないか。また、学校の空き教室等を活用して、人が大勢集まるような仕組みをつくることで、収入につながるようなことも検討していきたい。

- 民間の施設との住み分けや役割を整理し、場合によっては民間の施設利用者に公共施設を積極的に使ってもらうなどの働きかけや連携も考えられる。（例：スポーツジム）
- 学校の空き教室などを活用して人を呼び寄せて、人が大勢集まって交流を深めたり、そこで収入を稼げるような施設のあり方も必要ではないか。

全体的に公共施設の情報や案内が不足している。地区外からの転入者は公共施設の機能や使い方をわからない人もいるだろう。利用しやすくするための情報提供や工夫をしていく必要がある。

- 市外から転入してきた方は、公共施設の機能や使い方を知らない人も多い。最寄りにある公共施設の案内が不足している。利用しやすくするための情報提供が必要である。

地区利用型施設の再編については、地区のまちの状況（変化）、小中学校の空き教室や各公共施設の利用率等の現状を把握し、さらには地区内に影響を及ぼすであろう全市利用型施設の配置の方針を踏まえて検討をしていきたい。

- 小中学校の空き教室数など、現状の公共施設の利用状況について具体的に知った上で、地区利用型施設のあり方について検討したい。
- クラス数の減少等により発生しているであろう空き教室の利用状況なども知りたい。
- 全市利用型施設に関する配置について、市の方針があれば示してほしい。
- 昔と比べると、例えば市民病院の周辺など、地域の状況も大きく変わってきている。そうした地域の変化に応じた公共施設の見直しを考えていくことが求められる。

公共施設マネジメントの取組みをすることで、公共施設への移動が不便になるエリアに居住する方や高齢者に向けては、コミュニティバスを走らせるなどして利便性を保つなど、あわせて公共交通のあり方も検討する必要がある。

- 公民館で市のさまざまなサービスが利用できるようになれば、利便性も増す。そうした

ときに高齢者の方が利用しやすいようにコミュニティバスを走らせる、ということも考えられるのではないか。（公共施設とアクセスの有機的な連携）

・ 高齢化の進展とともに、身近な場所に高齢者の居場所として公共施設があることも大切になってくる。統合や廃止によって公共施設までの距離が遠くなることで、高齢者は施設までの移動が難しくなるので、公共交通のあり方なども合わせて考えていく必要がある。

コミュニティバス等の公共交通について検討する際は、ただ走らせるということではなく、再配置する施設のなかでも特に人が集まる施設や高齢者が集う場所を考えた上で、路線を検討していきたい。

・ 東部地区ではコミュニティバスの運用について検討がされているが、バス路線を検討する際に、公共施設の再配置が重要になってくる。ただバスを走らせるという話ではなく、どこに人が集うのか、高齢者のにぎわいづくりを一緒に考えながらコミュニティバスについて検討していく必要がある。他の地区がやっているから、こっちでもやるでは税金の無駄遣いにもなってしまうのではないか。

公共施設は全般的に駐車場が不足しており、駐車できずに施設を利用できないという問題も発生している。

・ 公共施設は全般的に駐車場が不足している。駐車場が満車で駐車できないために、利用できずに帰ってしまう場合もある。

公共施設が集中すると、道路渋滞が生じて交通事故の危険性が増すのではないかと心配である。

・ 施設が集中すると道路が混雑して渋滞したり、事故の危険性が増すのではないかという心配がある。

■小学校・中学校

蒲郡南地区は、公共施設のなかで学校の占める割合が高い上に、今後、人口減少に伴い児童数、生徒数の減少も予測される。学校の統廃合等で適正な規模にしていくことは、公共施設マネジメントの視点からも教育的視点からも必要ではないか。

・ 小、中学校区の再編も視野に入れているのか。公共施設で学校の占める割合が高いことを考えると、面積を減らすには学校の統廃合が効果的だと思うので、検討しているのではないのか。

・ 人口減少にともない、将来的にますます子どもの数も減少すると考えられる。子どもの教育環境の観点から考えると、今後、適正な規模を考えていくことが必要ではないか。一昔前のように４～５クラスあると、学校行事などでも適度な競争も生まれるし、

多様な人間関係を育むことにもつながる。

・　蒲郡南地区は、過去に人口や子どもの増加に伴い小中学校の規模が大きくなり、中央小学校や中部中学校に分割されていった経緯がある。今後、改めて小中学校の統合や廃止を検討するのであれば、蒲郡北地区（中部中学校区）などを含めた広い範囲での検討も必要ではないか。

小中学校の児童生徒数の推移だけでなく、将来の増減見込みを把握した上で、統廃合も含めた小中学校のあり方を検討したい。

・　小中学校の児童生徒数の推移と現状は資料にあったが、将来の増減の見込み数について予測があれば知った上で、統廃合も含めた小中学校のあり方を検討したい。

竹島小学校に府相公民館が移設し複合施設となることで、不特定の人たちが施設に出入りでき、防犯面での不安がある。学校にその他の公共施設を複合化する際は、安全性が保たれるよう、十分に配慮してほしい。

・　竹島小学校のように小学校に公民館が移転すると、不審者が入れるようになるのではという不安がある。安全性が保てるような運営上の工夫が必要だ。

・　学校にその他の公共施設を複合化する際には、安全面の配慮、セキュリティの問題があり、安易に複合化すれば良いという訳ではないと思う。十分に配慮・検討が必要だろう。

行政区と学校区が異なることで、所属するコミュニティも学校と生活圏で変わってしまい、子どもに負担がかかっているのではないか。別の小学校に通う子どもたちが地元の行事や子ども会に参加しにくい雰囲気を感じることがある。

・　小学校の統合、分割などで学区が変わり、行政区（地域住民の関係性）と学区がずれたりして混乱する。居住者も学校と生活とで関わる地区が変わることで居心地が悪くなったり、子どもに負担がかかっている（馴染みにくく感じたりしている）のではないか。今後、学校の統廃合を考える際には、こうした地区割についても十分配慮する必要がある。

・　南部小学校と中央小学校の学校区割について、地域の単位と学校区の区割りが少しちぐはぐな場所があり、別の小学校に通う子ども達が地元の行事や子ども会の活動などに参加しにくい雰囲気を感じることがある。

行政区と学校区が異なることで、子どもに負担がかかっていると考えるのは、親世代や地域住民である。子ども同士はすぐに打ち解けているようだ。

・　地域の単位と学校区の区割りの違いがあっても、子ども同士はすぐに打ち解けることができるようだ。むしろ親や地域の認識や考え方に問題があるのではないか。

竹島小学校区に三谷地区の一部が含まれているが、学校区を検討する際に、歴史や文化的な背景への配慮が足りなかったと思う。

・　竹島小学校の学校区に三谷地区が一部含まれることについても、新たに学校区を検討する際に、地域固有の祭りなどの歴史や文化的な背景への配慮が足りなかったのではないか。過去の経緯を知らない住民にとっては、なぜ現状のようになっているのか理解できない。

学校区については、子どもが通学で負担にならないかなどを第一に考え、子どもを中心として検討するものだと思う。

・　学校区については、子どもの体力面に配慮して学校までの登下校の距離を検討するなど、あくまで子ども中心に考えるべきではないか。

学校の授業や部活動などの教育の現場に、もっと市民に関わってもらうことが子どもたちの教育にも良い影響を及ぼし、市民のいきがいにもつながると思う。

・　授業や部活動など、教育の現場にもっと市民の関わりを積極的にもつことが、子どもの教育にとって良いし、関わる市民のいきがいづくりなどにも役立つ。

■保育園

府相保育園、三谷西保育園は、いずれも津波浸水想定区域内に位置していることから、災害時に危険である。統廃合をした上で、例えば、西田川公園付近のような安全な場所に移ったらどうか。

・　府相保育園は津波による被害が想定されるエリアにあるので、保護者としては安全性の確保の点でとても気になる。

・　府相保育園と三谷西保育園は、比較的近い場所にあり、いずれも津波浸水想定区域内に位置していることから、例えば西田川公園付近に移設・統合したらどうか。

■公民館

働き盛りの若い世代は、日頃、公民館がどのような用途で利用されているのか、どのようにすれば利用できるのかがわからない。また、運営側からすれば、若い世代が公民館でどのようなことをしてほしいのかがわからない。高齢者の利用だけでなく、若者をはじめとした多世代に集ってもらうためには、マルシェの開催などソフト的な展開も工夫しながら取組んでいく必要がある。

・　イベントの時には行くこともあるのだが、日常的にどんな用途で、どのくらい使われているのかがわからない。利用率はどのくらいなのだろう。

・　いろいろな団体が利用している。ただ、高齢者層の利用が多いのは事実だ。

・　仕事と子どもが中心の若い世代は、公民館は何か名目がないと使ってはいけないのかなと思ってしまい、使おうと思うことがない。
・　働き盛りの世代にも使ってもらえるように、ソフトの検討をする必要があるのではないか。
・　公民館は高齢者のための施設ではないので、門戸は広く開けているつもりだ。しかし、若い世代が公民館で何をしたいのか、何をして欲しいのかということが、年代が離れているのでわからない。そういう情報がないので、要望に沿った運営ができていない。
・　マルシェなどのにぎわいづくりを公民館などの公共施設で実施し、地域住民が集う場をつくっていけると良いのではないか（ソフト面の活用法）。
・

公民館の利用については、夜間利用ができたり、市の窓口業務を対応するなど、もう少し自由に柔軟に利用できるように制度を見直しし、利便性が増せば利用率もあがるのではないか。

・　現存する公民館については、せっかくある施設なのだから利用率をあげる方策を考えていくのが良い。施錠されて夜間使えないなども生じており、十分に施設が活用されていないのではないか。
・　公民館の利用方法については、色々と制約もあるかと思うが、もっと自由に柔軟に使えるようになる方法も検討するのが良いのではないか。制度の見直しなども必要ではないか。
・　市のサービス（手続き等の窓口）が身近な公民館などで出来るようになれば利便性が増す。そうした公民館の機能についても考えていきたい。

府相公民館は、南部市民センターとしての機能もあり貸館業務も行ってきたが、移設によりその機能が失われてしまう。貸館機能をどのように維持していくのかを考えていきたい。

・　府相公民館は、南部市民センターの機能もあり、貸館業務も行ってきた（それなりに利用もされてきた）。今後、公民館として運用していく場合、貸館機能が失われてしまう。新しい施設をつくるのか、公民館がその機能を担うのかなど、この機能をどう維持するかを考えていく必要がある。

公民館については、利用者数や収入の状況などを踏まえて配置や規模を検討する必要がある。

・　利用者数や収入の状況などをみて検討する必要がある。
・　新たに整備される府相公民館については、想定利用者数も考慮した上で規模について検討するべきではないか。

■児童館

児童館は、平日は母子で利用ができ、土曜日は母親不在時に父子でも訪れて子どもを遊ばせることもできる。子育て世帯にとって、児童館は重要な施設である。

・　蒲郡に引っ越してきて思ったのは、児童館はとても助かる施設だということだ。平日に母子で利用することもできるし、土曜日もやっているので、母親が買い物などのため父子で過ごさないとならない時に、子どもを遊ばせることができるのが良い。

■その他

西部小学校は、比較的空き教室もあり、読み聞かせなどの市民活動も盛んで周辺環境も静かである。例えば、市立図書館の機能を移設し、図書館跡地は別の機能を検討したらどうか。

・　西部小学校は、比較的空き教室も多く周辺環境も静かで、読み聞かせなどの市民活動も盛んである。そこで、市立図書館の機能を移設し、市立図書館の跡地は別の機能を検討したらどうか。

３．その他

竹島小学校に府相公民館が移設されるということは、小学校は統合されないということだと思い安心した。また、竹島小学校について三谷地区でも検討するということについても特に問題ないと思う。

・　竹島小学校に公民館が移転するということは、竹島小は統合されずに残るということなのかなと思い安心した。

・　竹島小学校について、三谷地区でも検討したい、ということについては問題ない。議論はしても良いのではないか。

■その他の質問

・　ワークショップの中で疑問が出てきたときには、市役所の担当者に質問をしても良いのか。

　→議論を進める上で必要な場合は、尋ねることは可能である（ファシリテーターが回答）。

・　そもそも「公民館」とはどんな役割の施設なのか。

　→市民の生涯学習のための施設で、市が所有管理するものである。（市職員が回答）

・　公民館は当該地区の人しか使えないのか。

　→他地区の市民でも使える。（市職員が回答）